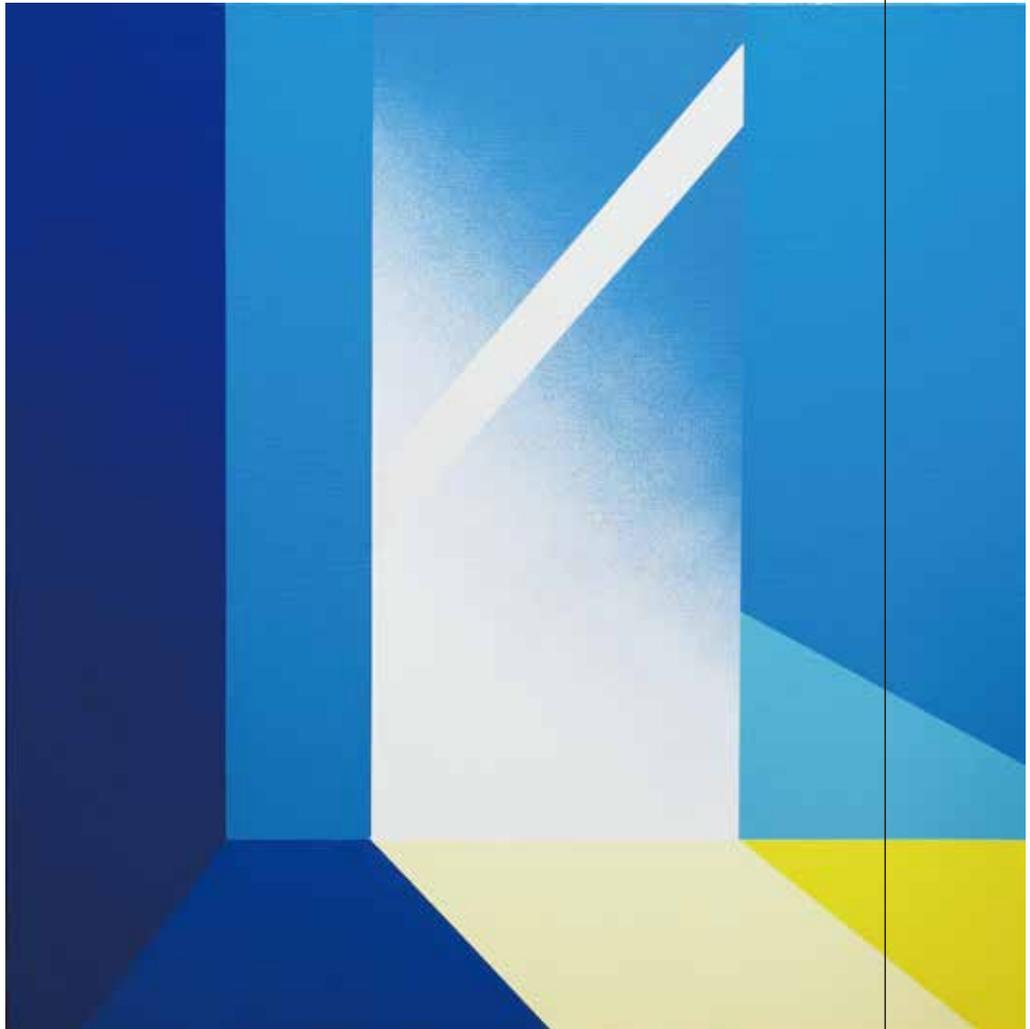


# table

2021



建築家と建築家 [出江 寛 × 出江 潤]  
建築家の行きつけ店、教えます

take free



建築家と建築から街を活気づけるマガジン

table vol ①

特集 建築見学  
建築見学とオンライン  
イケフェス大阪、オープンハウス、通天閣…

vol

1

## 特集 建築見学

建築を見るという行為は、もちろん、建築家だけのものではありません。今回の特集では、建築を見ること、見学するという体験について、さまざまな角度から考えてみました。まずは、コロナ禍の昨年から少しずつその機会が増えている、オンラインによる建築見学の話題からどうぞ。

文・竹内厚 撮影・パンリ、坂下丈太郎

### 02 建築見学とオンライン

イケフェス大阪によるオンラインへの挑戦

### 04 オープンハウスをどう考えるか

建築家 矢部達也 × 建築写真家 笹倉洋平

### 06 座談 建築見学を考える

石井良平 × 岡田良子 × 荒木公樹 × 金山大

### 09 アンケート オンライン建築見学どうでしたか？

濱田猛・堀部直子

### 10 建築家による建築見学

通天閣 / 榊原節子

### 11 建築見学リストアップ

### 13 建築家と建築家

出江寛 × 出江潤

### 14 あの人のオススメ

奥和田健 お好み焼きげん (大阪・寺田町)  
津田茂 CHI・i・NA (兵庫・芦屋)

みなさんとtableを囲んだ、その先で。

みなさんの周りで建築に携わりながら生きている人って  
案外、多いかもしれません。

大工さん、左官屋さん、工務店の営業職、材料メーカーでの研究者など  
建築を取り巻く職種は数多くあります。

私達は、その中で「建築家」と呼ばれる仕事をしています。

わかりやすいえば、設計という仕事になりますが、  
実は、建築家は設計だけではなく、建築を通して街や人々に寄り添いながら  
日々、さまざまな仕事をしています。

そんな、建築家の日常をテーブルの上に並べて置き、  
深掘りしたいなと思うところをここにまとめてみました。

「建築家」、そして、「建築」への見方が

より身近に感じられるようになればとてもうれしく思います。

そして、この「Table」を囲んで、

街が、社会が、さらに活気づくことを願っています。

奥和田 健

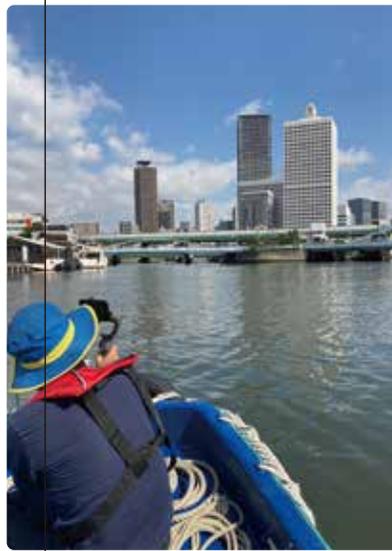
JIA近畿支部 広報委員長

table



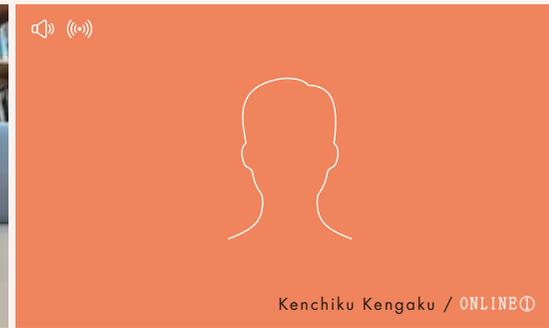
# イケフェス大阪によるオンラインへの挑戦

2014年から始まった「生きた建築ミュージアム フェスティバル大阪」、通称「イケフェス大阪」は、歴史的な建築から現代建築まで、さまざまな大阪の建築を一般公開する機会として知られています。2019年には150件以上の建築を公開、のべ5万人を超える参加者を集めた、いまや日本最大級の建築イベントも2020年はコロナ禍のなか、完全オンライン開催となりました。イケフェス大阪実行委員会 事務局長を務める高岡伸一さんに2020年のオンラインでの試みについて伺いました。



動画撮影は水上からも行われた

オンラインでのトークライブもZOOMを使って5本配信



Kenchiku Kengaku / ONLINE①



——2020年はすべてのコンテンツをオンラインで開催されました。オンラインならではの発見もありましたか。

——現在の様子とその歴史がフラットに見せられたことは、オンラインならではのですね。

——建物を公開する側も、今回のオンライン開催を通して視点が変わったところがあったんですね。事務局でも動画を制作していました。

——動画は3〜5分程度の長さでまとまっていますね。高岡 視聴するにはそのくらいの長さが適当かなと。すべての撮影に私も立ち会って、専門家の眼でここを見ればという部分をピックアップしたので、コンパクトに建物の魅力を多くの人に伝えられるという動画の可能性を感じました。一方でどうしても動画だと画角が横位置になるので、建物の縦方向の広がりや伝えづらくて。あとはBGMの問題も。既存の音源から建物に合ったものを見繕いましたが、動画の音楽をどう考えるかも迷うところでしたね。

——イケフェス大阪に限らず、高岡さんは建築見学の場によく関わっておられます。高岡 年々、建築を見学する人の数は確実に増えていると感じます。だけど、「建築見学」が一般性を獲得するまではいってなくて、今はまだ、建物好きという人が集まるので、例年のイケフェス大阪でもほぼトラブルなく開催できています。じゃあ、これがより一般に拡大していくとどうなるか。そして、どうやって広く一般に開いていくのか。そこは、これからの課題だと考えています。

高岡 もともとイケフェス大阪の運営は、現場のことはすべて各建物ごとにおまかせしていて、今回(2020年)はオンラインで開催しますとお伝えしたところ、約130件の建物に参加いただきました。一昨年は169件だったので、そこまで減ることもなく。昔の写真や図面なども積極的に公開いただいて、たとえば、大阪駅前第1ビルにある喫茶「マヅラ」のページでは、まだ開市のバラックに建てた頃の写真にいまや100歳のオーナーが青年姿で写っていました。

高岡 現役のオフィスのビルの場合だと、どうしても一般公開できる範囲が限られますけど、動画で公開するならOKというところもありました。大阪ガスビルは毎年公開されている人気の近代建築ですけど、今回の動画で執務スペースの奥にある竣工当時のレリーフが初めて公開されました。実はその場所って、いまは倉庫として使われていて、今回の動画撮影のためにあらためて社員の方がビルをくまなく見て回ったら、そのレリーフが残っていたことが発見されたんです。

高岡 はい、15本の動画をアップして公開しました。撮影方法としては、まず建物のあるロケーション、次に外観、そして玄関から入っていく……というリアルな見学を体験するようなオーディオックスなやり方をとりました。建築だけじゃなく、その建物を所有して維持している方々を紹介することもイケフェス大阪の目的なので、オーナーさん自身の語りで建物を紹介してもらった場面もつくりました。

## 生きた建築ミュージアム フェスティバル大阪

動画公開はすでに終了しているが、各建物の写真や歴史的写真は公式サイトで今も見られる。2021年の開催は10月30日(土)・31日(日)に決定。  
<https://ikenchiku.jp/>

## イケフェス大阪から 子ども向けの建築本刊行!

学校教育で習うことのない建築の見方をわかりやすく、さまざまな角度で紹介した子どものための建築本。といいながら、大人の「建築見学」第一歩としても最適。



はじめての建築01  
大阪市中央公会堂  
文・構成:倉方俊輔  
発行:生きた建築ミュージアム大阪  
実行委員会



高岡 伸一  
1970年大阪生まれ。建築家として数々の近現代建築の再生に携わる。近畿大学建築学部准教授。生きた建築ミュージアム大阪実行委員会 事務局長。



記録動画か動画作品か

矢部 新建築の動画(※1)は自分で撮って、僕と笹倉くん  
で後からアフレコした。DVDの特典についで、オーディオコメントリー風のことをやってみたかったですよ。

笹倉 あのアフレコのときもだいぶお酒が入って、ひと悶着あったけど(笑)。

矢部 原稿を書くまでのことはしてないけど、何回か練習して話すことを決めたのに、この人がふざけ倒すから。

笹倉 声出すのはちょっと恥ずかしいんですけど、あの映像は矢部さん、かなり何度も撮り直してましたよね。

矢部 といつても、 아이폰で建物の入り口から一筆書きのように撮って、動画の編集もせずにそのまま公開しています。あれは、動画の作品ではなく、あくまでも建物を

説明するための資料やから。

笹倉 そんなんですよね。僕もたまに仕事で動画を頼まれることがあって、だけど、今はまだ断ってるんです。どう編集すればいいかわからないから。

矢部 やらんほうがいいよ。単に記録として撮るだけなら、僕みたいに建築家が自分で撮ったらいいし、作品として撮るならまた別の作家性が求められるので。

笹倉 たとえば、写真を撮ると同じカメラでアングルを固定して動画を撮れば可能性はあると思うけど、それでどれだけ間が持つか。ちょっとまだ動画撮影には踏み切れていません。

矢部 達也 [写真右]  
矢部達也建築設計事務所主宰  
http://www.somosomono.com/  
@yabetatsuya  
@somosomono

笹倉 洋平 [写真左]  
笹の倉写真事務所主宰  
https://www.sasanokurasha.com/  
@sasan2000  
@yohei\_180sx



Kenchiku Kengaku / ONLINE

オープンハウスをどう考えるか

建築家 矢部 達也 × 建築写真家 笹倉 洋平

建築写真家として活躍する笹倉洋平さんが、建築家の矢部達也さんの設計で自邸「ササハウス」を建てました。コロナ禍のなか、オープンハウスではなく、ZOOMのオンライン配信による見学会を開催したり、「新建築オンライン」で紹介動画を公開したり。ふたりの対談はオンラインのことに留まることなく、オープンハウスの意義にまで広がりました。

ZOOMでの見学会について

笹倉 なかなか難しさはありました。この家を写真家として撮るなら、光量的には間違

なくお昼前後がいいんだけど、みなさんに見てもらえる時間帯を考えるとどうしても夕方の開催になったので。

矢部 といつても、わりと明るかったやん(笑)。僕はややこしいことは嫌なんで、あまり打ち合わせとかもせずにやってみて、結果的にかなりスムーズにできたと思います。

濱田くん(※2)がしつかり準備してくれたので。

笹倉 1台のカメラで家の中を撮影してまわって、その間も僕は、固定カメラの前でテーブル囲んで、楽しく話をしてただけなんですよね。

矢部 僕らは盛り上がりたけど、見る人はどうやったか。そのへんの反応はわからないのが難点でした。

笹倉 カメラに写りこまないよう、ビールの空き缶を片付けるのが大変で(笑)。

矢部 あのとときの記録は何も残ってないのよ。ZOOMの録画もしてなかったみたいなので。

笹倉 初めての試みなのでそこまでまったく気がまわりませんでしたね。



今回の取材はササハウスのリビングで。つくりつけの本棚も圧巻

オープンハウスの意義

矢部 これは僕の持論ですけど、引越し前の空っぽの建物を見せてもらえるオープンハウスでは家のハートの部分はわからないと思うんです。住み始めてからの家にお邪魔して、ちょっとリラックスして過ごさせてもらうという時間を持たないと。

笹倉 矢部さんは「ぼっこでっこ建築隊」(※3)という活動もされて、あれはとても面白いですね。

矢部 食べ物と飲み物持参で、スケスケと訪ねて行って、お風呂もいただいて、歌歌って帰るといいますけど、あの活動は建築家の自邸が対象やからできることで、一般のお施主さんの場合、僕が設計したところでも引越し後の見学は断られることもあります。

笹倉 僕は、多くのの人に見られることによって家は成長するものだと思います。自分たち以外の他人の目を意識する機会って大事やなって。

矢部 公開するとなれば当然、家の中を掃除するじゃないですか。この掃除するというのも、なかなか意外と大事なことなんよね。

※1 新建築onlineで公開されたササハウスの動画は再生回数2万回を超えている。「新建築 ササハウス」で検索を。

※2 ZOOMによるオンライン見学会は、JIA住宅部会の月例会として開催された。世話人の建築家・濱田猛さん(→P9)がコーディネート、司会を務めた。

※3 ぼっこでっこ建築隊のユニークな活動については、web版「建築討論」で公開されている。

ある夜、本誌の編集委員を務める4人の建築家が集まって、それぞれの建築見学の経験やスタイルについて語りあいました。まずは自己紹介も兼ねて、自身の建築見学体験を話した後、自由に議論を深めました。



岡田 良子  
Space Clip  
<http://spaceclip.jp/>

荒木 公樹  
空間計画株式会社

石井 良平  
石井良平建築研究所  
<http://ishiiryouhei.main.jp/wp/>

金山 大  
SWING  
<https://swing-k.net/>

どんな建築を  
いかに見てきたか

金山 建築見学といえば、学生時代からはじめているのですが、その頃に見たものってあまり思い出せなくて。ザツピングというカスタンプリングのように、憧れの建築を巡っていただけで、その頃は見ていたようでちゃんと見てなかったんだなと思います。実務をするようになってからは、「あ、この土地をそういう風に解釈して、こう結論づけたんだ」とって、自分の経験もトレースしながら建築を見ることで喜びを感じるように；でも、これは職業病ですよ（笑）。純粋に建築を楽しむという意味では、唐招提寺や慈光院といった古寺には季節を変えて何度も行ってます。

石井 建築を見に行くという意識はなかったですが、僕もお寺が好きで、中学生の頃から京都や奈良にひとりであらぶらと行ってました。変な中学生でした（笑）。

情報や資料、写真を  
どう活用するか

石井 どれだけの時間をかけて建てられたかは、ディテールなどを見ていくとよくわかりますよね。職人さんの手の跡や、楽しんでつくらはった人々なというの、ディテールを見ることで伝わってくる。

岡田 ディテールの話って、私たちが図面を描いているからわかることでもありますよね。随分昔の話ですけど、趣味として「関西建築見学会」というグループをつくって、一般の人たちと建築を見に行く活動をやっていくことがあるんです。建築を前にするとひたすら写真を撮ってるという方が多くて、だんだん写真を自慢する会みたくなってきてしまった（笑）。その会では、その日に見た建築について議論する飲み会もやっていて、それはすごくいい時間だったなと思います。

石井 建築を前にして写真を

そこに流れている時間や、人と建築の関係を（これは想像することが大切だと、最近よく感じる）と、最近よく感じる。20代の頃は、横事務所が刊行していたディテール集を首つ引きにしながら議論したりしましたけど、ディテールも大切ですが人の動きといったことに意識が向くようになってきましたね。

岡田 私は福岡出身で、修学旅行で京都に来ました。当時、美術部に入っていたこともあって京都市美術館に過大に期待して、勝手にループル美術館みたいなものだと思像してたら全然違ってた。そこ

がある建築という意味です。金山 今はインスタ映えという言葉があるように、写真に撮ったときに構図のにかっこいいということが先走りしているところがあって、これは自戒も込めてですけど、最近の建築ってほんとにいい建築なのか、単に今っぽくて雑誌映えする建築なのかを用心して見ておかないと怖いなと思います。消費される建築というのかな。昔の建物は、そんなことを考えてない。丁寧につくられたものがやっぱり残っていますよね。

荒木 金山さんのおっしゃる通り、僕は実務として建築をやっているから、建築見学といってもどうしても色気があるわけで（笑）。建築を見るという、表層的なわかりやすい部分から見てしまう習性は誰しもあるのだろーと思いたるまで、ずっと見続けていた。現代建築といえ、横文彦さんのヒルサイドテラスです。一昨年末に50周年を記念した展覧会も開かれました。ヒルサイドテラスを知った頃は、建物の表面的な部分に興味を持っていましたが、だんだん建物と建物の間の空間や、20年以上の時間をかけてつくられてきたことに関心が移ってきて、何度見ても新しい発見があるんです。

岡田 50年という時間が経てば、もう文化遺産と呼べますね。



50周年記念で出版された  
『Hillside Terrace 1969-2019』

金山 単に古いもの礼賛だと誤解されたくはないところで、時間が経て残っている建築というのは、きつと、ひとつの正解ではありませんよね。いまはどうしても商業的な観点でピックアップされてしまっているので。

荒木 古さというよりは基本的な建築と言ったほうがいいのかもいれませんが、これは時間の評価に耐えうるだけの深さ

荒木 古さというよりは基本的な建築と言ったほうがいいのかもいれませんが、これは時間の評価に耐えうるだけの深さ

## 建築見学 と オンライン③



### オンライン建築見学 どうでしたか？

昨年、オンラインでの見学会を主催した建築家たちの声を集めました

使った機材は、ノートPC、広角ウェブカメラ、iPhone、ジンバル。難しかったのは、なんとといっても音声ですね。特別なマイクを準備してなかったの、音声聞き取りにくいとの声が多かったです。あと、iPhoneだと途中で電話がかかってきて大変でした。

濱田 猛

JIA 近畿支部 大阪

12月のJIA例会にて、大江一夫氏のオンライン講演会を実施。当日の作業を最小限にするため、事前に撮影した動画を用いながら生配信をしました。事前の撮影にはドローン、GoProを使用。撮影時の音声調整、当日のネット接続環境が予測できない点が大変なところですが、名作住宅など、通常では見学できない作品の見学会にオンラインの可能性を感じます。

堀部 直子

JIA 近畿支部 大阪

石井 中に入れば、部屋のつくりや仕上げにどうしても目がいきますけど、その建物に外の光がどう入ってくるのかを見るのもひとつの見かたです。

荒木 照明に頼るといっても建築家からすれば残念で、光や明かりのことを考えないといけないんですね。



Kenchiku Kengaku / Consideration

金山 同行者がいる、いないでも建築から受ける印象は変

石井 季節によって建築の見え方は違うしね。最近、僕が思うのは、解説などを聞いて建築をわかるといふことにとだけ意味があるのかわからない。「わかる」というよりは、「感じる」ことのほうが重要なことだと思います。



太田邦夫「木のヨーロッパ 建築とまち歩きの手帳」は箱入り本

がそこに表れてますよね。だから、そこに窓のある理由を想像してみたり、あるいは、室内の照明を全部消したらどう見えるかを想像するとわかりやすいけど、お金をかけずに劇的な効果を生みやすいのが照明です。

岡田 そうですよ。ただ、照明がうまくいったらその建物は成功だともいえるくらいで(笑)。

荒木 何でも明るくしてしまふのはね。建築というのは素のままをさらけ出しても大丈夫なはずなのに、ショーアップを前提とした作られ方をするのはよくない。やっぱり本質的じゃないという話になりますね。

建築の夜間ライトアップも僕はどうかと思うんです。あれを見ると、大物女優がライトアップされて顔が真っ白になつてる様子が思い出されて(笑)。ライトアップで大事なのが見えなくなるんじゃないかと心配で。暗い中で見る建物もカッコいいとは思いますが。

わってくるので、ひとりで見に行くのもいいかもしれませぬね。

荒木 ひとりで孤独を楽しみながらゆっくり見るのはいいですね。

金山 あとは、心が惹かれたら同じ場所に何度も足を運んでみることに。

金山 写真を撮るとそれだけでわかった気になって、しかも意外と後で見返すことがないんですね。

岡田 そうなんです。写真を撮ったという安心感で満足しちゃって。

石井 僕らは仕事柄、あの人のあの建築がいらいらしいよといった情報が入ってきちゃうので、どうしても気になってしまふんですけど。

岡田 今日はこれを参考までに持ってきました。JIAの住宅部会で海外へ建築見学に行ったときの資料です(50ページにもおよぶ手づくり資料)。現地へ行く前の事前調査として、見学先の資料を集めて冊子にまとめて参加者に配っていました。これで予習しておいて、見学するんですね。



JIA住宅部会の海外見学に際してつくられた資料の充実ぶり!

撮るかどつかは難しいですね。ただ、建築写真を見たこと、その場所に行ってみたくと思うこともありますよね。僕の場場合は、西澤(文隆)さんの本『伝統の合理主義 建築・NOTE』。撮られた写真は西澤さんの目であり、どこを見るのかを覚えてもらいました。

石井 僕は仕事柄、あの人のあの建築がいらいらしいよといった情報が入ってきちゃうので、どうしても気になってしまふんですけど。

という言葉で花を認識してしまふとものが見えなくなるというたとえ話なんですけど、建築見学にもそういう面はありますよね。設計者や様式といった情報も必要だけど、いかによく見るとかという点ではジャマになることもある。



というのとまた違って、仲間どうしで感想を言い合える楽しさがあるんですね。

岡田 見た建築についてみんなでああだこうだ言うのは、やっぱり楽しいですよ。

石井 一般のひとに建物をどう見たらいいかと聞かれたら、建物の外観と合わせてその周囲を見るのも大事ですよ。周囲の環境はどう変わったんだろうかって。

金山 たえば、その建物が建つ前の様子を想像しながら、周りの道を見てみるとか。実際の建物を前にすると圧倒されてしまふけど、そこは想像力(これはもう妄想力かもしれないけど)を働かせて。

建築見学の  
スタイルあれこれ

通天閣

初代通天閣(1912年築)の後、1956年に再建された2代目。設計は東京タワーと同じ内藤多仲。

大阪市浪速区恵美須東1-18-6  
展望台料金900円  
(※屋外展望台+跳ね出し展望台は+300円)

見学先



榊原 節子

榊原節子建築研究所主宰。  
通天閣に登るのは今回が初めてだそう。  
<http://www.setsuko-sakakibara.com/>

見学した人



展望台から真下を見る

屋外展望台に新設された跳ね出し展望台は足元がシースルーに。眺望を楽しむはずのこの場所から、あえて建物を見学。「建物の構造は下から見たほうがよくわかりますね(笑)。通天閣を中心に放射線状に道が設計されているのがよくわかりました」

見学を終えて：  
「通天閣」見学  
どうでしたか？

東京タワーなどと違って、末広がり上で広がりだのぼつとしたフォルムは、決して美しいシルエットというのではないですが、大阪の愛らしいキャラクター性が表れているように感じました。足もとには免震のために補強が入って、ハリボテ的な感じにもなっていますが、その分、遠くからも見える塔の部分は昔のままで保持されているんですね。こうした鉄骨がむき出しになった建物は、古い工場や駅舎など、どんどん失われていますから貴重なものだと思います。

細部にも注目

「あらためて見ると鉄骨が華奢できれい。レースっぽくて軽やか。面というより、線材の組み合わせなので視線のヌケもあっていいですね。私自身、鉄骨好きなので、これはいいですね。古い鉄骨造ならではの魅力です」



鉄骨の細さはエレベーター内からも確認できた。

ちょっとした発見



展望エリアは、外向きに倒れた角度でガラス窓やフェンスが傾いていた。「下がよく見えるようにという工夫かなと思います。展望施設、観光施設としての工夫はいたるところに見られますね」



まずは遠くから



待ち合わせたのはあべのハルカス16階。遠景から通天閣を見てみた。「こうして見るとタワーマンションが結構多くて、周囲に埋もれてますね。いかにも上に展望台がありますという形なので、あの上の部分から周りを見渡せるんだという想像力が膨らみます」

街とセットで見る



建築家はどのような目線で建築を見ているのか。そのことを追体験するためにひとりの建築家と大阪を象徴するあの建物を訪ねました。

「看板で埋め尽くされた大阪らしい街並みとその先に見える通天閣、迫力ありますね。看板、設備や屋外階段にしても、街を形づくる要素なので、単に建物を見るだけじゃなくて、見学する建物の周辺の情報採集は欠かせないですね」

下から見上げる



下には初代通天閣の天井画が再現されている。「塔の下を道路が通っているつくりってかなり珍しい気がします。このヌケ感と、ポテッとした4本足で支えて頑張っている感じがおもしろい。観光地ながらも生活の街でもある新世界ならではの土地性を感じます」

出江建築事務所代表  
1931年京都市生まれ。立命館大学理工学部卒業後、京都大学施設部を経て1959年竹中工務店大阪本店設計部入社、設計副部長。1976年出江寛建築事務所設立、1991年出江建築事務所に改称。

「人間の本质は言葉であり、神の本质は沈黙である。キリストは沈黙の人であった」とM. ピカートは記しています。それは、建築を沈黙させることで、素材そのものの声を聞き、その存在を生かすことができると考えているからです。素材の使い方には、その建築家の、さらにはその人間の内面が現れてくるものです。設計をするときには、なぜその素材を選んだのか、その空間や土地にとってそれがどのような意味を持つのかをよく考えなくてはなりません。3人の息子たちは、様々な素材とディテールを組み合わせ、私が設計した空間でそれぞれ個性的に育ちました。なかでも次男の潤は、いろいろなことに興味を持つ、絵がうまくておもしろいところもある子どもで、建築家になる素質が一番あったように思います。

ソファが造りつけられている背景は、「沈黙した」黒皮鉄板の一枚板。マンションの一室。異素材を組み合わせたインテリアの中で強い存在感を放つ。

01

ふたりの建築家の関係性を撮影します。  
今回は、出江寛さんのご自宅で、  
息子の潤さんと一緒に。

文：古歴史 撮影：小椋山貴裕

と

浅野・出江建築事務所共同主宰  
1975年京都市生まれ。日本大学工学部卒業後、1999年出江建築事務所入所、2007年ATELIER JUZE開設、2017年浅野・出江建築事務所開設。

僕が子どもの頃、家には厳然たるルールがいくつかありました。たとえばそれは共有スペースに私物は置かない、など、インテリアを美しく保つ住まい方の基本となることでした。家庭内での父の存在は大きく、僕は進学を考えるときには自然と同じ道を選んでいましたし、卒業後には父の事務所に入ることは当然の流れでした。父を建築家としても家族としても尊敬しています。父の作品が一番好きな「基督兄弟団西宮教会」(兵庫県)は、40年ほど前の建築ですが、コンペ当時、父は「この場所にキリスト教が根付いているのだとすれば、そこにある建築もその土地に根付いた形や素材でつくられるべきだ」と語ってそうです。いまは独立して別の事務所を主宰していますが、父の哲学はずっと僕の中に存在していて、選ぶ素材やディテールに自然に継承されていると思います。

京都

- 醍醐寺薬師堂  
平安時代より約900年風雪に耐えた建築で、見学には山道を約1時間歩く必要があります。(波多野崇)
- 大山崎山荘美術館→平等院ミュージアム鳳翔館  
数年前まで京都に来た友人、知人を案内していた駆け足コース。いづれも自然と歴史に応答した建築。構想、プラン、空間、ディテール…全てにおいて眉目秀麗。設計は大山崎が安藤忠雄、鳳翔館は栗生明。(角直弘)
- 河井寛次郎記念館  
鳥根県の大工の家に生まれた河井寛次郎は、当初、建築を勉強していたとか。京町家でありながら、古民家の骨太さが感じられる建築。(岡田良子)
- 京都市京セラ美術館  
建築家・青木淳と西澤徹夫がリノベーション。重厚なレンガ建築に新たに明るく開放的な要素を取りこむ建築。(後藤直子)

滋賀

- 滋賀県庁舎本館  
ギリシヤ様式を基盤とし、格式を備えつつも現代的機能に対応した庁舎は、佐藤功一+國枝博という二人の建築家が英知を絞り、麗麗さを駆使した近代建築の総決算といえる。1939年竣工。
- ラ コリーナ近江八幡  
近江八幡のランドマーク、「たねや」の店舗群。巨大な藤森照信建築として、決してテーマパークとはならない原初的な魅力がある。
- 多賀町中央公民館「結いの森」  
2016年に公開コンペが行われ、179案の中から選ばれたo+h(大西麻紀+百田有希)の案。町産のスギとヒノキを使用している。低層棟が連続する。回遊性が高く、幾つもの居場所が同時に成り立つ利用者に関われたプランとなっている。
- 旧宮地家住宅  
近江風土記の丘に移築されている余呉型と呼ばれる農家です。長浜市国友町にあったもので、湖北地方民家の様式をよく伝える貴重な建築として、国の重要文化財に指定。(以上、平居晋)
- 大津市役所  
伝統的な日本建築の様式を生かしながら、戦前、戦後にかけて公共建築の変貌がわかる象徴的な建物である。独立した柱、梁によって構成された三層構成によるモダニズム建築。(吉原秋夫)

和歌山

- 郭家住宅  
登録有形文化財、明治初期の洋館(異人館)です。奥に繋がる江戸末期の数寄屋茶室も質が高いです。
- 松下会館  
大阪の綿業会館と同じ渡辺節により設計された、和歌山大学の学生会館。郭家住宅とともに保存活用の議論をしたことのある建築ですが、今後の方針はまだ決まっていないはずで、解体の危機にある。
- 和歌山県立近代美術館  
黒川紀章の代表作の一つ。内外の関係性、アプローチのデザインに見どころが多いです。
- 南方熊楠記念館  
小嶋一浩氏の遺作の一つ。野生司義章設計で登録有形文化財の旧館と接続されています。(いずれも谷岡拓)

大阪

- 大阪府立青少年海洋センター  
見どころは断面計画。そして、海上に建つ研修棟は、その特徴的な外観だけでなく内部空間の居心地も体感したい。(伊藤孝)
- 大阪教会  
ヴォーリス設計の教会。R型に特注で創られた木の椅子が並び、ヴォーリス独特の落ち着いた空間となっている。(所千夏)
- 丹治 Tanji  
堺市内の当初の特徴を残した煉瓦造りのイタリアンレストラン。登録有形文化財。(所千夏)
- 日本橋の家  
現在は建築系ギャラリーとして利用されており、安藤忠雄の住宅作品を体感できる貴重な作品。学生にもお薦めです。(東野晋二)
- あべのハルカス  
各地から遠景として見える楽しさは、現代版「富嶽三十六景」。個人的なおススメは四天王寺五重塔との競演。(貴志泰正)

兵庫

- 書写山 園教寺  
姫路の書写山上に位置する天台宗の荘厳な古刹。大講堂をはじめとする多くの建物が重要文化財に指定されています。
- 兵庫県公館  
明治35年に山口半六の設計で兵庫県本庁舎として建設された壮麗な歴史的文化遺産です。現在は資料館、迎賓館。
- 六甲枝垂れ  
六甲山上に2010年にできた枝垂れをイメージした展望台。JIA支援の設計コンペで選ばれた三分一博志氏の設計。
- 兵庫県立美術館  
HAT神戸に位置する安藤忠雄氏設計の巨大美術館。港の風景を眺めながら現代アートが楽しめます。
- 尼崎パーキングエリア  
阪神高速神戸線にある木の香の漂う外壁が素敵なパーキングエリア。JIA支援のコンペで選ばれた納谷学氏の設計。(いずれも兵庫地域会役員一同)

奈良

- 鹿猿狐ビルデング  
猿池西側の明治から続く花街「元林院町」にあるこの建物は細い路地を隔て江戸時代の建物で、元・芸妓置屋「まんぎょく」と対峙しコントラストを際立たせる。歴史あるこの街の進化に期待する。(山下喜明)
- 室生山上公園芸術の森  
室生寺のすぐ近く、地すべり対策の跡地を有効活用して造られた、環境彫刻家ダニ・カラヴァン設計による公園。(小笠原香代)
- 大和文華館  
竹が植えられた中庭を巡る吉田五十八設計の美術館。1962年に第3回BCS賞を受賞。周囲の庭ではササユリなど、四季折々の花が楽しめる。(山下喜明)

コメント後ろの( )内は推薦いただいた建築家の名前

近畿各県で活動するJIAの建築家のみなさんに、ぜひ実際に足を運んでみてほしいという建築見学の訪問先を教わりました。

お好み焼きげん  
大阪市阿倍野区天王寺町北2-113-5  
☎090162491070  
◎11時半〜14時閉店・17時〜22時半閉店 日曜休

# 👍 お好み焼きげん

大阪・寺町



刻んだ大葉を混ぜ込み、醤油×オイスターソースで食べる、しそバター650円が奥和田さんの推し玉。



奥和田 健  
奥和田健 建築設計事務所  
<https://okuwada.com/>

# あの人の

# オススメ

建築家の  
行きつけ店、  
教えます  
Recommend  
Shop

麻婆豆腐はSサイズ700円。この“赤”の他、  
山椒を効かせた“白”やウコンオイルの“黄”もあり。



津田 茂  
T-Square Design Associates  
<http://www.t2designassociates.com/>



兵庫・芦屋

CHI:NA(チイナ)  
青屋市船戸町1-25アルパ芦屋1F  
☎07971213222  
◎11時半〜14時閉店 17時〜22時閉店 不定休

# CHI:NA(チイナ)

（オープンキッチン、好きですね。）

（空間に旨そうなオーラが漂ってる。）

「建築家目線で通う店を見る？ 全くないです。店の居心地って結局は人がつくるものだから。完全に彼のファンです。彼、沖繩がルーツの人なんだけどBEGINっぽいでしょ？」と、旧知の料理長をイジる。かつては深夜まで営業していた中華バル、常連歴は長い。北浜の事務所を出て、自宅のある芦屋に着くのは24時頃。坂を上がれば安らぎの邸が待つが、つい心の中にBEGINの名曲『恋しくて』を流してしまうのか……こちらのカウンターに誘われる。「彼の料理がめちゃくちゃ旨いです。ピータンから始めるのが定番で、黒酢の酢豚などを2〜3品。さらに麻婆豆腐は絶対だし、チャーハンも大盛りで注文！。そんな深夜の友は紹興酒で、平常運転でもボトル1本強を飲み干し、「ひとりで4本空けたこと」と笑う。建築家視点を持ち込まないと津田さんは言ったが、やはり性分が顔を覗かせるようか？ 「ものづくりをする人間としてはやっぱり手元を目で追ってしまいますね。だからオープンキッチンのカウンター店って好きで。僕は遅くまで店にいますので、アリーナ席で片付け作業まで見られる(笑)」。紹興酒をまったり飲みながらピカピカに磨かれる厨房を眺め、それが津田さんの癒し時間だった。

奥和田さんが考える街暮らしの醍醐味とは、「外にある飲食店が家の一部になる」こと。住んで10年になる寺町町にも「離れの食卓」を多く持つが、「週1は必ず、下手したら週3」で座りたくなるのがこの鉄板前。L字カウンターを6人で囲めばもう満席、というミニマルな空間は、祖母から孫へと家族三代に渡って受け継がれた住居兼店舗。創業して65年ほどになる。わざとつくってない空間がいいですよ。仕事では頑丈な建物をつくってるわけですけど、実はこういう華奢な感じが好き。長屋というのも大阪らしいし、夜道に赤く光る提灯はどうしても寄り付いてしまう……。人の磁力も強く、三代目主人の佐野元さんはブタ玉を550円で提供しつつ、予約をすればヘレやハラミの塊肉までこの鉄板で焼いてくれる、まさしく小さな巨人店。奥和田さんはその愛する食卓にほとんどのクライアントを招待してきた。「住宅要望を聞いて相手から返ってきた言葉って、聞かれたから答えただけで、本当に欲しいものじゃないんです。本質を探るためにもお互いの人間性を知っておかないと、その人の空間はつくれないなって。まずは自分の好きな空間を知ってもらって、いっしょに酔っぱらうんです(笑)」。

## JIA 近畿支部に学生委員会ができました！

JIA近畿支部では昨年度から学生委員会が立ち上がり、JIA近畿支部学生卒業設計コンクールでJIAとかわりを持った大学院生が中心になって活動を始めました。社会人と学生の狭間の時期の活動ということで「HAZAMA LAB.」という通称で呼んでいます。社会に出る前の狭間にいるからこそその視点を持った「社会での実証実験」を、学生が企画し実施する、JIAと学生のコラボレーションのような立ち位置です。社会実験と聞くと、身構えてしまうかもしれませんが、しかし、大学の設計課題を進めるプロセスも、敷地や条件に対して仮説を立て、かたちをつくり、うまくいかないところを図面や模型を用いて可視化し、提案をより良くしていくという意味では、実験を繰り返しており、そのデザイン思考のプロセスは身体に浸み込んでいるはず。卒業設計を通過した学生だからこそ、一度社会では当たり前と思われることに疑問をもって、社会に問い直し実証実験をすることが、広義の社会への貢献になるだろうと思っています。

前田 茂樹 JIA近畿支部 学生委員会委員長

### 参加する4人の学生たちから

#### 尾石 光

千葉大学大学院  
園芸学研究所 環境園芸学専攻  
ランドスケープ学コース修士2年



「社会人としての矜持をもとう」。卒業制作を経験した私たち大学院生は、当然のことだが勉強のみをする学生ではない。設計をする建築士でもない。けれど、建築家と学生の狭間にいる私たちは設計を行う以前を疑い、思考実験としての設計手法を生み出し、美しい風景を描き切らなければならない。それを支えるものは何か。社会実験を行う知的探究心である。大学院になぜ進むのか。それは研究をしながら設計を行う矜持があるからである。社会に貢献するためにまずは、社会課題を引き受けなければならない。それは研究力である。社会実験を行うことはその第一歩となるはずである。

#### 鹿山 勇太

大阪工業大学大学院  
工学研究科 建築都市デザイン工学専攻  
建築史・建築理論研究室修士2年



建築行為は人間の起源的な創作行為だ。その行為がこれまで繰り返し積み上げられてきた中で、今自分たちがその歴史を継いでいく場所にいると思う。その中で新しいことを考えるのにはとても興味が湧く。「社会実験」とは固定観念を疑い、視野を広げることができるものだと思う。何が正しいか、正しくないかの外側の世界での活動はとても未来性を感じる。学生が集まってできることには限りがある中で、このような場をもって活動をさせてもらえることは、残りの学生期間に経験できる世界を広げることができそうに楽しんだ。

#### 名富 心

大阪市立大学大学院  
生活科学研究科 生活科学専攻  
居住空間設計学研究室修士2年



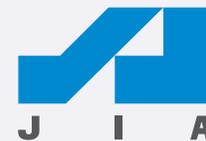
社会実験は「現時点の社会的価値観」を記録する側面がある。新型コロナウイルス感染拡大による非日常が各々の価値観を更新し、新しい日常を獲得しつつある今だからこそ、その意味はより鮮明で有意義なものになると考えている。個のわずかな価値観のゆれは、波及したりほかの個と互いに影響しあったりすることで増幅し、社会構築におけるこれまではなかった綻びや歪みを記録させる。その面白さを学生目線で解釈しながらカタチのあるデザインに落とし込む活動をしていきたい。

#### 岡本 典子

奈良女子大学大学院  
人間文化総合科学研究科 住環境学専攻  
景観デザイン学研究室修士2年



約1年前、卒業設計を終えたことでやっとスタートが切れたような感覚になった。建築は好きだがそれを職能としていいの悩んでいたところ、卒業設計を進めていくうちに自分が真にすべきことが徐々に明確になり、ランドスケープアーキテクトを目指す意志が固まった。卒業設計は私たちに覚悟を決めさせてくれる。ランドスケープの作品であるにも関わらずJIAへ選出していただき、それが今回に繋がっている。建築とランドスケープが互いにどのようなアプローチをしたときに、どのような成果を得ることができるのか、それぞれの専門性を尊重しながら活動していきたい。



## JIA (The Japan Institute of Architects) とは

JIA=日本建築家協会は、建築家が集う公益社団法人です。建築、まちづくりを通して社会公共に貢献する活動をしています。その近畿支部では滋賀、京都、兵庫、大阪、奈良、和歌山の各地域会と、さまざまな委員会、研究会、部会が活動をしています。

<http://www.jia.or.jp/kinki/>

JIA近畿が行っている建築イベントやコンペ、おすすめ情報などはホームページで更新しています。

建築プロジェクトの  
設計者選定を  
サポートしています。

JIA近畿支部では、設計コンペティションやプロポーザルの実施などを第三者の立場で支援しています。近年では、この「JIAサポート」を通して、阪神高速に整備されたパーキング施設の設計コンペティションが2016年に行われました。応募登録177者、提案書提出86者、1次審査通過5者という審査を経て、最優秀賞となった納谷建築設計事務所が設計を担当。2019年春、無事に竣工を迎え、「今までの阪神高速にはない施設ができた」と喜ばれています。これからも「JIAサポート」を通して、時代に相応しいよりよい建築の創出に貢献していきたいと考えています。

協力会員委員会による  
「カタリスト」にも  
ご注目ください。

JIA近畿支部では、当支部の目的・事業に賛同し支援いただく法人協力会員制度を設けています。また、協力会員委員会では、正会員と協力会員により委員会を構成し、事業の企画等を行っています。その一環として、新たな情報発信を進めています。その名は、「Catalyst(カタリスト)」。日本語で「触媒」という意味です。協力会員を、建築家と建築、オーナー、施工者の間に入って化学反応を起こす「触媒」と見立てました。その化学反応(カタ)つてもらおうという企てです。ぜひご覧ください。



JIA近畿  
協力会員  
委員会名簿



「Catalyst  
(カタリスト)」  
記事

荒木 公樹 JIA近畿支部 大阪地域会長

## 大阪

様々な活動が休止・延期を余儀なくされる中、この1年、将来につながる活動が地道に続けられました。大阪地域会の参加する大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会による「出前講座」が、2020年日本建築学会教育賞（教育貢献）を受賞しました。平成15年のモデル実施に始まり、近年は毎年20校以上の出前授業を続け、活動の住環境の向上をめざす姿勢が評価されました。

「オンラインレビューを考える」をウェビナーにより開催。全国各地・海外からの参加を得て、市民・事業者・行政等の新たな連携につながる可能性を実感できました。

大阪で開催された全ての活動の紹介は叶いませんでしたが、今後読者の皆様の活動へのご参加・ご協力をお願い申し上げます。



「出前講座」の開催風景

大阪建築部会では、昨年7月に近代建築分科会が「関西学院大学外国人住宅群見学会」を、同年10月に樹木と街分科会が「南港ポートタウンの森を探訪」を開催。見学会等の実現が難しい中、関係者が努力を重ねたことはきつと次の展開につながると思います。

都市デザイン研究会では、昨年12月に大阪と東京を結んで「JIA市民大学講座2020 建築とまちの価値を高めるデ

## OSAKA

学生たちとのワークショップ



「日本の縮図」と称される兵庫。北は日本海に面し、南は淡路島を介して太平洋へと続きます。都市から農山村や島と、さまざまな地域で構成され、多様な気候と風土があり、魅力あふれる地域です。

「建築」は、生活に大きくかわる存在であり、「建築」でまちが構成されています。多くの方に、「建築」に触れて興味をもって頂くことで、新しい地域・社会が発見され、魅力的な地域が維持されていくと思います。そんな「建築」に親しんで頂けるような事業を通して、参加頂きた方々に住みよい建物やまち、地域のことを考えることを考えていきたく思います。

この1年は、コロナ禍もあり、対外的な活動を自粛してきましたが、2021年度はニューノーマルなスタイルで事業を発展させ、地域の皆さんと共に建築やまち、地域のことを考え、新しい発見ができる活動を行っていきます。

## 兵庫

駒井 陽次

JIA近畿支部 兵庫地域会長

## KYOTO

## 和歌山

谷岡 拓

JIA近畿支部 和歌山地域会長

昨年はコロナ禍により世界中が大変な年となりました。当地域会でも予定していた事業計画の多くが延期や中止になりました。そんな状況下でも何かできないかと知恵を出し合い、WEBを有効利用した新たな取り組みにチャレンジしました。まず5月に、「建築と子供たち」の活動を「離れた場所での体験型講座」というテレ・ワークショップで開催しました。アルド・ロッシの世界劇場のペーパークラフト製作キットを子供たちに送り、Youtubeによるレクチャーで仕上げてもらい、出



アルド・ロッシのペーパークラフト

るという企画でした。集まれないでも子供たちの創造力を刺激できたと感じました。7月には地域間交流を続けている文京建築会とWEBでの交流をしました。題して「JIA京都地域会・文京建築会オンライン建築家交流戦」です。東（文京建築会）と西（京都地域会）に分かれて、建築とプレゼン能力を競い合いました。5人对5人の団体戦、各自5分で、それぞれの建築や建築論について熱い思いを語って頂きました。勝敗は、オーディエンスの投票によって決めたり、WEBならではの双方向の参加型イベントとしました。集まらないことを逆手に取れば、遠く離れた他団体との交流も容易いものだと気づきました。

今年度も京都地域会は、社会状況に応じて手段は柔軟に変えませんが、活動は頑なに続けて行きます。



今は昔、マスクなしの集合写真

和歌山地域会は23名の建築家が正会員として所属しています。毎月、役員だけでなく全員が参加できる月例会を開催し、方針や企画を全員で議論していることは大きな特徴の一つです。そのため新入会員は入会後すぐ、会の重要な方針決定にも意見でき、ベテラン建築家ともフラットに議論できる環境がつけられており、若手建築家も積極的に活動しやすい会です。人口減少の時勢の中、若手の入会により正会員数をキープできている要因とも思います。

45社の協力会員のサポートも

大きな力となっています。協会活動と設計活動の両方において相互の協力関係構築が意識されています。協力会員のサポートにより、建築家が建築作品の質を向上させられる関係が良いです。

また、県建築士会、県建築士事務所協会と立ち上げた「建築三団体まちづくり協議会」があります。行政の建築担当者をオブザーバーに迎えた定例会を毎月開催していることは、少人数の会の活動の幅を広げています。行政の後援と、建築関係外の企業協賛を得て開催している「きのくに建築賞」は特徴的です。

和歌山の建築を考える建築家は、日本建築家協会及び和歌山地域会に入会いただき共に活動しましょう（具体的な活動については季刊誌「J・W」を近畿支部HPからご覧ください）。

また、和歌山でのまちづくり、建築・設計活動の協力者をお探しの方は、ぜひ和歌山地域会を窓口にご相談ください。

小田 裕美

JIA近畿支部 京都地域会長

## 京都

## WAKAYAMA

## HYOGO

近年は、神戸の元町や乙仲地区、淡路島の矩口地区などで

行っています。この活動では地域の方々や学生たちとワークショップを行うなど、フレキシブルな発想で支援しています。

また、2010年度から建築出前授業「すまいるまちづくり育成塾」を継続して行っています。小中学生を対象とし、段階的に素材の模型づくりのワークショップを通じて、コミュニティを形成し社会ともつながって、さらには街に発展していくというプロセスを疑似体験しながら、建築と空間というものが持つ可能性を発見してもらっています。

# 奈良

2020年度地域会長就任を機に、これまで通り減災・防災の活動や奈良の建築文化遺産継承と保全・活用体制づくり等、地域密着型活動を基本としながら、新たに「季節毎(年4回)講演会」の方針を立てるも、新型コロナウイルス騒動で前半は活動が休止。後半は手探りながらようやく活動を再開できました。この時勢だからこそ活発化したリモートを積極的に活用し、10月の第1回講演会は「Zoom」によるリモートと同時に「Youtube ライブ配信」にて開催。Peakix による事前申込は300名を超え「日本の気文化の源流を探る」縄文時代の遺跡から見えてきたこと」をテーマに天理大学附属天理参考館特別顧問、香芝市二上山博物館長の松田真一氏の講演ということもあり一般参加も多く、手応えを感じました。続いて3月の第2回はリモートとリアル(密を避けるためFMレシーバーを

活用20名限定)の併用に奈良の名勝(国指定文化財)「依水園」の見学会を、庭園研究会の第一人者森羅氏の後継者として奈良を拠点に海外でも活躍されている牧岡一生氏による案内と解説で開催。これは「JIA文化財修復塾」のラボとして修復塾受講者は単位を取得できるシステムとしました。



第1回講演会イメージ(縄文・三内丸山遺跡)

今後も2回の実験を活かし課題も克服しながら、建築に限らず文化・歴史等、多様性を意識した活動を模索し、講演会アーカイブは地域会HPのコンテンツとして発信します。活動へのご参加はもちろん、HPのチェックもよろしくお願いいたします。

「近畿支部保存再生部会」とのコラボとして修復塾受講者は単位を取得できるシステムとしました。

## NARA

## 滋賀

### 平居 晋

JIA近畿支部 滋賀地域会長

新型コロナウイルス感染対策のため、書面決議による総会を経て、2020年度は活動の方法を模索しながらの一年となりました。しかし、皆さんのご協力とご配慮を得て、恒例の「景観まちづくりフォーラム」を秋晴れの11月14日に開催することができました。地域住民や行政、JIAメンバーのみならず、大河ドラマ「麒麟が来る」の主人公明智光秀ゆかりの大津市坂本町を会場とし、琵琶湖から比叡山延暦寺につながる参道を形成するまちの歴史を学び、歴史的風致維持向上計画の策定についても行政担当者から説明をいただきました。10回を数えるこの事業は、歴史の中で育まれてきた湖国を学ぶ機会となり、建築家として地域で果たしていく役割を考えるきっかけでもあると感じました。今後は、建築にとつて重要な滋賀県内の由緒ある場所での開催を検討します。



第10回景観まちづくりフォーラムの様子

2021年度の事業としては、JIA近畿支部の滋賀地域会らしい「建築賞」の創設への取組みを始めます。同時に、地域材など地域性豊かな建築への学びや、「景観まちづくりフォーラム」を通じた地域での学びを継続して進めていきます。びわ湖を囲む滋賀県は、地理的歴史的要因から個性豊かな地域が連なっています。その良さを大切にしながらコミュニケーションがとりやすい工夫をし、活性化を促す仲間づくりも進めていけたら、と考えています。



わたしの table

### 01 井上 久実さん(井上久実設計室)の自宅キッチンテーブル

自宅兼事務所の我が家はリビングがなく、ダイニングキッチンが家の中心です。忙しくても料理や食事を楽しむ場であり、時にはここでアイデアを考えます。作業性とコンパクトを追求し、天板はSUSの板を貼り、キッチンと一体になっています。大勢が集まる時に備えて、テーブルサイドにもSUSの跳ね上げテーブルを後に取付けました。南側の中庭の窓から心地よく光が入り、ますます、このテーブルを使う頻度が増えています。

## table

table 1号

2021年5月1日発行

公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部

大阪市中央区備後町2-5-8 綿業会館4階

企画・制作 JIA近畿支部広報委員会 紙媒体ワーキンググループ

WGメンバー

荒木 公樹(空間計画)

石井 良平(石井良平建築研究所)

岡田 良子(Space Clip)

奥和田 健(奥和田健建築設計事務所)

金山大 (SWING)

延原 利明(株式会社フジワラ)

中野 健生(東リ株式会社)

飯家 礼子(安田株式会社)

編集 竹内 厚

デザイン タナカタツヤ

表紙ビジュアル 南田 真吾